

蓼科会会報

平成 23 年正月通信



(10月の御柱祭)

平成 23 年正月

会長就任のご挨拶



会長 脇田 宏

8月8日に開かれた今期の通常総会で蓼科会会長に推挙され、受諾させていただきました。蓼科には日も浅く、非力な私にと

って予想もしない展開でしたので、みなさまのご助力、ご協力をいただけることを条件にお引き受けいたしました。

今期の活動方針としては、故平林会長の提唱された「親睦」と「若返り」を継承していきたいと思っております。会員のみな

さまが蓼科会に参加していて楽しく、よかったと感じられる会にしていきたいと思っております。

会員同士の「親睦」と「若返り」をはかるには、「ホームページ」の立ち上げが必要不可欠と考えておりました。この度、会長代行・総務幹事の稲留偉智氏のご息正英さんのご協力が得られることとなり、「広報部長」として、活躍していただける運びとなりました。ホームページなど無縁と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、これを機会にお子様やお孫さんの助けを借りてインターネットの世界にお入りになるのもよろしいのではないのでしょうか。

会計幹事には、板倉峰子様のご息女にあたる板倉幸枝さんと相澤良枝さんが担当し

ていただけることになりました。これに伴って、長い間監査の任に当たられていた板倉峰子様には参与になっていただき、監査は両角はつ様とともに岡森しのぶ様にお願いしました。

正月の新年会、夏のテニス、ゴルフ、旅行会、午餐会、音楽会、お別れ会などの年間行事の企画を担当する幹事には、経験豊富な矢野喜夫氏にお願いしました。新しい観点からの展開が期待されます。

さらに、会員の所有する山荘の分布や最近伝えられる別荘地の荒廃状態などを把握するため「環境整備」担当の幹事を新增し、真崎規江氏にお願いしました。

こうした方々以外にも、今後多くのみなさまのお助けをいただいて会を運営いたしたく存じますので、どうかよろしく願いいたします。

ここで私と蓼科との結びつきについて書かせていただきます。はじめて蓼科高原を訪れたのは、私どもが結婚を決めた昭和38年の夏の頃で、岳父（西川義方）に招かれ山荘を訪ねた時です。プール平には大きなプールやひき馬などがあり、コックドールでご馳走になったことを覚えています。山荘の風呂からは霧ヶ峰に沈む真っ赤な夕日を眺めました。縁側に立つと八ヶ岳連峰はもとより、遠く南北アルプスまでを望むことができました。歯磨きのチューブをねじるだけで中身が盛りあがってくることや濡れ手ぬぐいが翌朝にはからからになってしまうことに驚いた思い出があります。現在と比べると樹が少なく、高原は眺望がよく、乾燥していたのだと思います。

その後は仕事が忙しく、あまり蓼科に行く機会がありませんでしたが、退職を機に

小さな山小屋を建て、毎年蓼科の生活を楽しんでおります。薪をつくり、ストーブで燃やす楽しみも覚えました。巣箱や餌台に集まる野鳥や栗鼠を眺めるのも喜びです。なかでも蓼科温泉の泉質のすばらしさは当代随一のものと考えています。

こうした夏の暮らしの中で蓼科会のみなさまとの交流は嬉しく、今後も続けさせていきたいと望んでいます。みなさま、どうかよろしく申し上げます。

会議等の報告

1. 幹事会

8月7日「銀のポスト」にて幹事会を開催した。出席者16名。毎年使っている消防会館は、長野県知事選挙の日に重なり使用できず。

本年4月21日に平林会長が逝去され、会長職が空席の為、平林さんと義兄弟であられる関谷元会長よりご挨拶に続いて、蓼科会の歴史、蓼科協議会から蓼科会へ変わった経緯等についてのお話があった。その後、脇田宏さんを新会長に推薦したいとの発言あり。出席者全員拍手で賛意を表し、脇田新会長が決った。ご本人も受諾の意向を示され、会長就任挨拶の後、下記の役員候補が指名された。

総務、会長代行	稲留 偉智
会計	板倉 幸枝 相澤 良枝
企画	矢野 喜雄
環境整備	真崎 規江
蓼科部会長	関谷 全
会計監査	両角 はつ 岡森しのぶ
参与	板倉 峰子

総会での承認を得て正式決定される。

2. 地元懇談会

8月8日、アートランドホテルにて地元懇談会を開催した。出席者は、蓼科区長代理天野さん、東洋観光太田副社長と小松さん。長野県知事選挙があるため、区長他役員が出席できず、天野さんが区長代理として出席された。

天野さんより以下の発言。

(1) ごみ処理の問題

ごみは完璧に仕分けして貰わなくても良いから、カンはカン、ピンはピン位の仕分けはして欲しい。買い物袋では持っていつてくれない。茅野市のリサイクルバッグに必ず入れて下さい。タイヤを置いていく、地デジ化でテレビを置いていく等の不法投棄もみられる。

脇田会長より、会報等で規則を守るように指導しているが、更に注意を繰り返していくとの発言あり。

(2) 蓼科区役員

区の役員改正は、毎年12月初めに行われる。次年度の役員は、現区長に聞いて貰えば分かるはず。

(3) 御柱祭

10月3日に蓼科神社の御柱祭が行われる。9時に蓼科湖を出発、子供22人の木遣があり、御柱は蓼科湖を渡す。

真崎さんより蓼科神社周辺、第一銀行寮の辺りが真っ暗。夜間照明を考えて欲しいとの発言あり。

東洋観光より、蓼科地区の活性化を目指して市と活性化会議の模索をしている。ビーナスライン沿いの草刈、伐採を3年程前からやっており環境整備に努めている。蓼科湖周辺を明るくしよう、遊歩道を整備しようとして1,000万円の予算で外灯をLEDに替

えた。無芸荘の外にトイレを作る事も検討中。昭和29年から蓼科発電所が稼働しているが、(小済川から水を落として発電している。)施設も老朽化し、危険もあるので3年前より電力供給を停止している。この度、丸紅の子会社である三峰川(ミブガワ)発電所が全面改修工事を行い、来年5月より発電再開する。

鹿の問題は年に2~3回会議を行い、年間250頭程度を駆除している。鹿は、八ヶ岳周辺から茅野地区に掛けて約8,000頭いると思われる。

3. 第49回通常総会

8月8日(日)アートランドホテルにて開催された。出席者12名。

葉書出状196通、返信88通(委任状97通、出席者9名)。3分の1以上の委任状及び出席者あり、総会は有効に成立。会計担当より会費納入は、現在104人、120人位になると思う。

昨日の幹事会で脇田宏さんが会長に選出され、新役員指名がなされた事を報告。会長及び新役員について全員拍手で承認された。(新役員については幹事会報告をご参照下さい。)

真崎さんより会計報告。両角さん、板倉さんより、会計監査報告。承認された。

昨年の東京での幹事会で役員が関西から東京での会議、新年会等に参加する場合、旅費の補助をする事を話し合ったが、実際には支払われていない。引き続き、会長、及び総務で内規を作る事が承認された。

脇田さんより、今夏の黒部立山旅行の参加人数、会よりの補助金について報告があった。

平林前会長が4月21日に逝去され、故人のご冥福を祈り、黙祷した。

4. 第1回幹事会

8月18日 脇田会長山荘にて、新役員による第1回幹事会を開催した。出席者7名。昨年は、10月に東京で開いたが、今回は蓼科で行う。以下、幹事会テーマ

(1) 役員の職務分担

会報は引き続き稲留総務が担当する。総会出席等の返事は直接、脇田会長へ。水道審議会への出席は関谷さんに代わり稲留総務が出席する。

(2) 音楽会

今年の音楽会はバイオリン、チェロ、ピアノのトリオ演奏であったが、好評を得た。従来チラシに加え、アートランドホテルのホームページでも宣伝したため、会員以外の参加も多数あり、会場が手狭になった。入場料の1,000円も良かったのでは。来年も同様の企画で、演奏家への予算170,000円を計上する。

(3) ゴルフ大会

今年は初めて東洋観光と共催としたが、来年も同様の取り組みとする。

(4) 旅行会

東洋観光主催のバス旅行、黒部立山バス旅行に蓼科会から8家族17名が参加した。

(5) 蓼科会ホームページ

蓼科会会員は、インターネットを利用されない方が多いが、時代の趨勢でもあり、ホームページを立ち上げる。稲留総務子息の正英氏が広報担当として担当する。

(6) 地デジ対策

アンテナを立ててもテレビが見えない、地デジ対策等について話し合った。ホーム

ページ上に地デジ対策を取り上げる。

親睦会

1. 第7回ライオンズゴルフ大会

今年の蓼科会ゴルフコンペは、初の試みとして東洋観光株が同社別荘オーナー杯として開催している大会と協賛して行うことになりました。

蓼科会から8名と四季の森(原村)別荘オーナー並びに東洋観光関係者を含め、総勢32名のゴルフコンペとなり、8月6日蓼科高原カントリークラブで開催されました。

好天の下、初の他の地区の方々とのゴルフとなりましたが、和気藹々と楽しいプレーで各自健闘しました。戦績は蓼科会の面々は各自実力を出し切れたとはいいがたい面もあり、稲留偉智氏が総合8位に入賞したにとどまり、成績発表の席では寂しい思いもありましたが、参加全員が飛賞等を獲得し楽しく過ごせた一日でした。

蓼科会の栄えある「ライオンズ賞」は川邊裕子さんが見事獲得されました。

今回はどのような形での開催になるか未定ではありますが、歴史ある蓼科会からの参加者が今年を凌ぐことを願ってやみません。
(西川 義紀記)

2. テニス大会

今年は昨年と異なり、太平洋高気圧が居座って、異常な猛暑と言われたが、その猛暑の始まりだった8月7日(土)に行われた。参加者は、例年より少なく17名であったが、その内9名の方(相沢、岡森、関谷、戸張、松本、山中夫妻、矢野夫妻)は、1997年の第1回大会の参加者であり、その後間

もなく参加された狩野さんと関根さんを加えた11名が、



言ってみれば蓼科会テニスの常連である。毎度の事であるが、松本

さんと狩野さんは、夫々の避暑先である清春や清里から朝早く自動車を駆って来てくださるのである。このような常連の皆様を支えられて蓼科会テニスは、14回目を迎えたのである。

さて試合の方は、猛暑を物ともせず予定の全試合を完遂した。その中でも戸張さん門下の大藤さんと前川さんが若さを全開して試合を大いに盛り上げてくれたのが印象的であった。西瓜とビールで締めくり、来年は8月6日（土）で如何ということであった。（矢野 喜雄記）

2. サマーコンサート

8月8日に、会場アートランドホテルにて「ピアノトリオ」のコンサートはお陰様



で大盛況に終わりました。80名近いお客様の半数は別荘会員以外

の一般客などが来場されて大好評でした。

（信州毎日新聞で告知、ホテルのHPに掲載など）入場料が1,000円という破格の安さに比べて演奏者は実力者ぞろいで初めてのお客様には感動と驚きの言葉を頂きました

た！（こんなに安いチケットでいいんですか・・・？）当日、予想以上の来場者に会長さん始め、幹事メンバーは歓喜の思いでした！今回入場料1,000円にしてみ・・・幹事会でかなり協議し、チープな企画内容の印象を与える不安もありました。今どき学生、アマチュアだって3,000円は取るのに・・・ただ蓼科会の存続、会員の世代交代などかねてからの主旨を維持するためにも「サマーコンサート」の継続は重要な企画であるので、経費不足分は会から支援という決定に至りました。とりあえず、今回は試験的にチケット1,000円でやってみたら、結果は大成功！毎年、蓼科以外の各地域、東急、女神湖、ペンションでもコンサートブームの様です。また、来年も同じメンバー〈ヴァイオリン・佐久間大和／チェロ・山岸宜公／ピアノ・田口真理子〉で開催予定です。もっともっと盛り上げようと来年は前夜祭としてプール平広場でバーベキュー大会も予定のようです。誰かが飛び入り生演奏・・・あるかもしれません！またこれは個人的に期待してるのですが、板倉元副知事が蕎麦打ち名人なのでぜひ実演して頂きたいですね？（狩野 聡美記）

3. 立山黒部アルペンルート紀行

今年の旅行会は8月20日東洋観光企画の「立山黒部アルペンルート周遊バスツアーA、Bコース」に便乗する形で実施された。蓼科会からの参加者は7家族14人だった。

早朝6時にプール平を2台のバスで出発した。Aコースは安曇野の奥にある扇澤駅からトロリーバス、ケーブルカーを乗り継ぎ、黒部ダムでは、高い堰堤の上から3本

もの虹がかかる豪快な放水を眺めた。さら



にロープ
ウエイ、ト
ロリーバ
スで登り、
昼前には
標高
2,300メ
ートルの

立山室堂に到着した。朝方は曇っていたが晴天となり、残雪の残る立山三山をはじめ、北アルプスの山々を真近に楽しむことができた。

天気がよすぎて雷鳥を見ることは出来なかったがチングルマやミヤマキンバイなどが美しく咲いていた。帰りは同じ経路をたどり、7時前に無事帰着した。参加家族には500円の補助があった。(脇田紀久子記)

4. 夏のお別れ会

夏のお別れ会を8月18日銀のポストで行いました。参加者は20名で盛会でした。新会長になられた脇田さんをご挨拶と自己紹介及び同日午前中に行われた新役員による幹事会の報告をされました。

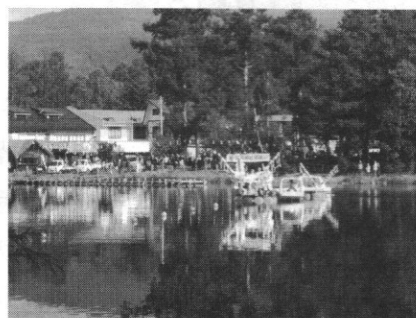
会員の方よりテニス、ゴルフ、音楽会などは活発に行われているが、全ての会員が参加できる行事が企画できないかとのご意見が出ました。お別れ会后、東洋観光とも相談し来年8月7日にプール平 東洋観光事務所前でバーベキューをする事を検討します。(稲留 偉智記)

5. 蓼科神社の御柱祭

10月3日は蓼科神社の御柱祭。朝から良い天気となり、早いかなと思いながら蓼科

湖に出ました。もう子ども達の木遣り隊や踊りの女性達も集まり、そのうちすっかり日が照ってきて、湖の上で、神事が行われました。いよいよ御柱がしずしずと湖岸を離れ、対岸へ進み始めました。我々も湖を

半周しながら、横から眺めると湖岸から蓼科山、木々、朝日と相まって、何と



も神秘的な光景でした。あまりの美しさに思わず、その場で見とれてしまいました。

やがて、御柱は対岸へ。我々も移動して上陸を見守り、ご近所でお振る舞いや木遣りで景気づけ。いよいよ綱を曳き始めましたが、何とも年齢層が高く、掛け声通りには進まず、大変でした。地元の方々も我々を暖かく迎え入れて下さり、子ども時分の様に、一心に綱を曳きました。

市長さんも見えられ、法被姿で参加。あちこちでのお振る舞いに最初の遠慮はどこへやら、すっかり仲間に入り、何と楽しかったこと。アートランドまで曳いて、次はプール平まで車で移動して、お昼の行事を楽しく見物しました。踊り、長持ち、プロの歌や木遣り、それぞれ、見応えがありました。最後は、年齢も忘れ、カーブと上り坂で御柱を引き上げました。神社の境内で行事があり、御柱が建った頃にはもう日も暮れてしまいましたが、何とも童心に返って楽しかった一日でした。(稲留 景子記)

6. 横岳神社の御柱祭

11月4日、諏訪大社横岳神社の御柱祭に参加させていただいた。標高2240メートルと



いう日本一の高さでの御柱祭である。朝10時にピラタスロープウェイの頂上駅

前の広場で神事が行われ、小さな御柱は横岳神社まで200メートルの距離を約30人の氏子によって引かれていった。氏子となっているのはロープウェイ会社をはじめ、観光開発会社、ホテル、ペンション、山小屋、土産物店の経営者がおもで、若い消防団員も含まれていた。横岳神社で冠落しの儀式が執り行われ、御柱が建てられた。この横岳神社はロープウェイが設置された後、ロープウェイと登山者の安全を祈願して、1969(昭和44)年に建立されたのである。

神社から見渡すと八ヶ岳連峰はもちろんのこと雪を抱いた甲斐駒、北岳など南アルプスの山々、御岳山、乗鞍岳、穂高、槍、遠く剣岳までも見渡せた。この朝は蓼科でも水道も凍る寒さで、雲ひとつない青空に霧氷に包まれた樹々が見事なコントラストを見せていた。(脇田 宏記)

蓼科高原 昔ばなし

—第二次大戦前後の山荘生活—

山中 厚弘

I はじめに

私は昭和14年、小学校2年生のとき、初めて蓼科高原の山荘生活を経験した。

その後、戦争の激化や社会人となつてすぐ4年間の九州赴任、2年間の外国赴任などの期間を除き現在までほぼ70年、盛夏を中心に蓼科の生活をエンジョイしてきた。最初は貸し別荘を転々としていたが、現在は昭和17~18年に建った家を改築しながら70年近く同じ家に住んでいる。山荘生活での思い出はつきないが、なんといっても第二次大戦前後、学生時代の山荘生活は懐かしく、楽しい思い出である。当時一緒に遊んだ仲間の大半は故人となつてしまった。記憶の薄れていることもあるが老人の昔話としてご寛恕ねがいたい。

II 戦前の蓼科高原

1、なぜ蓼科高原か

昭和初期の家庭は子供の数も多かったが病気も多かった。特に肺結核は難病で特に若い人々の命を奪った。私の家もそうだったが、兄弟の一人二人を亡くしている家庭はざらだった。当時の結核に対してはストレプトマイシンのような特效薬はなく、栄養を取り安静にしているぐらい、一旦かかると死を宣告されたような感じで、現代人が癌に対して抱く感覚よりはシビアーなものだった。私の両親も親類の若い従兄妹が肺結核で亡くなるのを見ていて、人一倍結核予防に留意していた。

一方、大正末期頃より結核対策として日光浴を取り入れたスイスの大気療法が紹介され、高原のきれいな空気と紫外線の保養効果が喧伝されていたようである。蓼科高原はその点で注目され、諏訪の小学校の保養訓練施設が小斎の湯の傍らに

出来、名古屋帝国大学（現在の名古屋大学）の高原気候医学研究所が昭和14年に開所された。昭和初期、現在は郵便局、東洋観光事務所、テニスコート、万葉堂・いちきゅうなど土産物店がある平（たいら）に温泉旅館が数軒あった。この温泉旅館の湯請け人（請負経営者）が中心となり、その前方、現在駐車場となっている場所に、50メートルと児童向け25メートル温泉プールを、長野県の補助金を得て昭和2年に着工した。当時このような温泉プールは珍しく、付近一帯がプール平と呼ばれるようになった。続いて親湯、滝の湯にも25メートルの温泉プールが出来た。別荘の開発は昭和4年ぐらいからであるが、昭和12年には100軒を超えたようである（五味幸男、「蓼科高原開発の歩み」より）。

父は出張でたびたび諏訪に行き、保養地としての蓼科高原は紫外線が強くオゾン豊富、気圧が低く、空気が乾燥していて結核患者にも、その予防にも非常に良いと聞いていたようである。母も大正天皇の侍医をしておられた西川義方先生が蓼科高原の気候・風土を礼賛された記事を見ていた。父母は蓼科で貸し別荘を借り、ひと夏を一家で過ごすことを決めた。昭和14年のことである。なお、西川義方先生は蓼科会の現脇田会長の奥様のお父上にあたる。蓼科を愛され、ビーナスラインのゴルフ場付近の道路沿いに桜の木を寄付されている。

蓼科に来てみるとプール平の旅館、三幸館には都会から児童が集団で保養に来ていたし、小斉の湯の横にあった諏訪の小学校保養訓練施設もにぎやかであった。

鈴鹿平には川岸村（現岡谷市）の保養施設も昭和15年に出来た。プール平には東京で近所だった人の息子さんが結核療養にきており裸で日光浴をしていた。子供の私が面白がって覗きに行くとよく水をかけられた。当時の結核療法は転地療養で、蓼科のように紫外線の強いところで、栄養を取り日光浴をするのが望ましいとされていた。蓼科の近くの富士見や軽井沢近郊の追分にも結核療養のサナトリウムがあったと記憶している。その後も私の友人の兄上が結核となり滝の湯で長期療養をしていた。

初めて蓼科に来て、1、2日目の夜だった。3歳の妹が発熱し母が大慌てした。医師の話では蓼科は紫外線が強いので戸外に出るときは徐々に体を慣らさないと子供は熱を出すことがあるとのことだった。当時蓼科に常駐の医院はなかったが、名古屋帝大の高原医学研究所で、たまたま医師がいれば診てくれ、後年私は診てもらったことがある。

2、蓼科へのアクセス

私の一家は、以降毎夏蓼科に通うことになるわけだが、東京在住の我が家は列車で茅野駅まで行き、そこからバスかタクシーで蓼科に向かうことになる。戦前の交通事情は今と違い、車で東京から蓼科まで行くなどは考えられないことであった。

東京茅野間、当時の中央線は急行もなく各駅停車の蒸気機関車（SL）であった。後年甲府までは電気機関車となったが、それまでトンネルが多い浅川（現在の高尾）から勝沼の間は大変であった。冷房

などない時代の夏のことである、窓を開け放って列車に乗っているわけだが、“トンネルだ”との掛け声が聞こえると窓際の人があわてて窓を閉める。バタバタという音がひとしきり、トンネルに入るまでに閉めそこなった窓からは煤煙が車内に入り込み煤だらけとなる。

中央線は山地をぬって走るので急勾配が多く、途中の初狩、笹子、勝沼、韭崎、穴山、長坂など数駅がスイッチバック方式で列車が停まるプラットホームのところだけが引込み線でフラットとなっていた。駅に停車しなければ列車はそのまま登ったり降ったりするのだが旅客列車は全部各駅停車であり、一旦停車した列車がバックして駅または本線に入っていった。子供にはこれが面白く、いつも興味深く眺めていた。後年急行ができると各駅停車の列車が停まっている横を急行はすりぬけていった。

新宿、茅野間は約6時間位かかったと記憶している。一番列車で朝6時半ころ新宿を出、午後12時半頃茅野につくことが多かった。長い列車の旅であるが、途中桂川の河岸段丘や猿橋、スイッチバック、甲府付近に駅でブドウ畑の中に停車すると昆虫採取の網を持っておればと思ったり、甲府駅の仮名表示が「かふふ」となっているのを不思議がったり、結構退屈はしなかった。当時は途中の駅名を全て覚えたものである。

このような交通事情で移動が大変なため、別荘に来た人々は大体一月前後は滞在した。私の父は仕事の関係ですぐ帰ったが、教職関係の家庭などは一家そろって夏休みをたのしんでおられた。一月近

くの山荘生活のため日常生活に必要なものはチッキで送った。チッキとは我々が乗る列車と一緒に荷物が積み込まれ茅野駅で受け取り、それをまた蓼科まで届けもらうシステムであった。当時蓼科では一久（現在のいちきゅう）が集配をしていた記憶がある。プール平から各別荘へは馬の背を借りていた。

茅野から蓼科まではハイヤーで行った。ビーナスラインはなく現在の国道299号線を通って芹が澤から湯川に出、杜鵑峡の入り口を経てビーナスラインに入りプール平に到ルートで、ほとんど舗装されておらずデコボコ道だった。時間は40分以上かかったのではないか。自動車が通れる道はプール平経由親湯までであり、現在のように山荘の前までとは行かない。我々はプール平で降り、後は徒歩に頼るのみ。戦争激化に伴いハイヤーはなくなり、バスを利用した。バスの燃料はガソリンの代わりに木炭となり、力が弱いため山寺、杜鵑峡付近の急坂を登れず、乗客が降りてバスを押しが多かった。湯川が中継基地であり敗戦前後のバスはほとんど湯川止まりであった。

＝次号へ続く＝

蓼科区役員

来年の蓼科区長他をご紹介します。

区長 柴田 眞人さん

代理区長 桑野 眞さん

会計 寺村 純一さん

一年間宜しく願います。

0266 67 5456

新年会のお知らせ

恒例の新年会を下記のように開催します。

日時：1月29日（土）

12時から14時30分

場所：「HIBIYA PALACE」

住所：〒100-0012

千代田区日比谷公園1-6

電話：03-5511-4122

会費：4,000円

ホームページ： <http://www.hibiyapalace.co.jp/>



アクセス・交通日比谷公園内、霞門近く

・地下鉄丸の内線「霞ヶ関駅」B1a出口より徒歩2分

・地下鉄千代田線「霞ヶ関駅」C1出口より徒歩3分

・地下鉄日比谷線「日比谷駅」A14出口より徒歩3分

・JR有楽町線「有楽町駅」日比谷口より徒歩7分

申し込みは1月22日までに稲留景子へ

電話：03-3314-2650

携帯電話：080-5415-7000

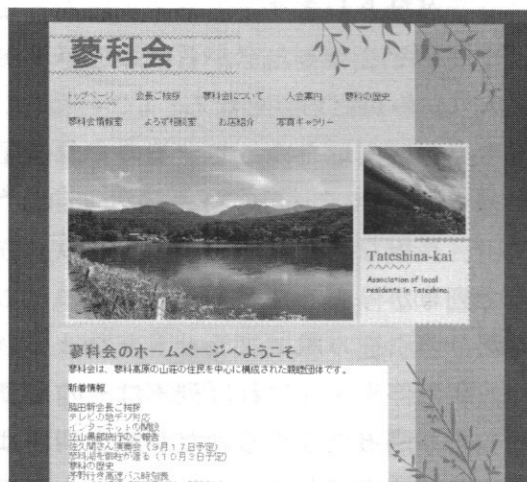
なお、1月27日以降のキャンセルは会費を徴収させていただきますので、ご了承ください。

蓼科会ホームページの開設のお知らせ

蓼科会のホームページを開設しました。

URLは以下の通りです。

<http://web.me.com/inatome5/tateshinakai>



会の活動、便利情報、地元のお店情報などを発信していきます。是非ともご覧下さい。なお、ブラウザは、Microsoftの「Internet Explorer」の動作が重い場合は、Googleの「Chrome」をお試し下さい。

<http://www.google.com/chrome/>

（ダウンロードの仕方、使い方は、お孫さんなど、周りの若い方にお訪ね下さい）

編集後記

今年には諏訪大社御柱祭りの年。地元の蓼科神社小宮祭も10月3日に行われ、我が蓼科会会員も、地元の方と力を合わせ、蓼科湖から蓼科神社までの里曳きに参加。老骨に鞭打って心地よい汗を流しました。

横岳の御柱祭りの報告も合わせて本誌に掲載しましたが、これ以外にも河童の湯横の下坂子神社の祭りも盛大でした（蓼科会ホームページに写真を掲載）。蓼科会にご利益あれ。

（稲留 偉智記）